

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2612 号

An analysis of patients with a chief complaint of difficulty moving

体動困難が主訴で救急搬送された患者の分析

村松 賢一 (むらまつ けんいち)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、体動困難を主訴に 2017 年 8 月から 2021 年 10 月にかけて順天堂大学医学部附属静岡病院救急外来に搬送された患者に対して救急診療科が管理するデータベースを用いて後方視的に分析を行い、原因疾患や頻度、転帰など臨床的特徴をを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。性別、年齢、既往歴、ADL、バイタルサイン、血液検査、血液培養、画像検査、転帰、modified Rankin scale、診断名に関して後視的調査を行った。予後良好群を退院時の modified Rankin Scale 0-2、予後不良群を modified Rankin Scale:3-6 と定義した。統計解析方法として non-paired Student`s t 検定、median 検定、 χ^2 検定、 $p < 0.05$ 時に統計学的有意と判断した。予後良好群では脱水 ($p=0.04$)、精神 ($p=0.02$)、薬剤 ($p=0.04$)、予後不良群では年齢 ($p=0.001$)、性別 ($p=0.02$)、LDH ($p=0.04$)、BUN ($p=0.005$)、BNP ($p=0.003$)、FDP ($p=0.001$)、感染症 ($p=0.002$)、外傷 ($p=0.01$) が挙げられた。体動困難を主訴に搬送された患者に対する明確な診断アルゴリズムはまだ確立されていないため、今回の知見では病歴聴取、バイタルサイン評価、身体診察、血液検査、培養検査、生理学的検査、CT などの放射線検査を行うことの重要性を示唆するものであった。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。